

西中だより

学校教育目標

目指す生徒像：豊かな心と学ぶ意欲を持ち、たくましく生きる生徒

目指す学校像：すべての生徒に喜びと感動を育み、笑顔あふれる西中学校

川口市立西中学校

〒332-0028

川口市宮町16-1

Tel 048-253-1231

Fax 048-251-6792

令和6年3月26日発行（春休み号）

放っておかない

校長 三浦 伸之

3月22日は今年度最後の給食の日でした。いつもは賑やかだった3年生の教室を通り過ぎ、1、2年生のフロアへと足を運びました。担任の先生とのじゃんけんにも勝っておかわりをゲットした生徒の歓声が響く教室。友達との会話を弾ませながら食事をする生徒や黙々と食べる生徒など、いつもと変わらない光景がありました。

「今年度の給食も無事に終わりそうだ」そう思いながら階段を下りていると、階段フロアを雑巾で拭いている2年生の女子生徒にばったりと出くわしました。給食を運搬している途中で何かこぼれてしまったのでしょうか、誰もいないその場所をたった一人で拭きとってくれていました。「拭いてくれてありがとうございます」と声をかけると、足早に階段を駆け上がっていきました。

私はこれまで西中を含め、8校の中学校に勤務してきました。その学校の中には、いわゆる生徒指導困難校と言われる学校もありました。その学校では、校舎内を回る際は、生徒が破損させたものを修理するための工具は必需品で、校舎の外に投げられた牛乳パックや紙飛行機となった授業プリント、お菓子の包み紙などを拾う毎日でした。授業を抜け出した生徒を探し回ることは日常茶飯事で、生徒と言ひ合いになることもありました。

当時を思い起こしますと、この状況を何とかしなければならぬと、先生たちとベクトルを同じくし、何があるとも生徒と真正面から向き合うことを覚悟しながら、試行錯誤の日々が続きました。なかなか先に進むことができず試練の連続でしたが、地道な積み重ねから学校は少しずつあるべき姿を取り戻しながら、生徒にも変容が見られるようになりました。そのプロセスを目の当たりにすることができたことは、自分自身のよき財産となっています。

その時に学んだことは、「放っておかない」という生徒指導の根源です。どんなことがあっても、どんなに反抗されても、同じことが毎日繰り返されても根気強く、生徒を第一に思い、誠意を持って対応していくことの大切さを学びました。

そのような経験から、1日のルーティーンとして、学校の中や外を自分の目で確かめながら歩くという習慣は、今でもからだに沁みついています。西中では授業や給食、部活動などの時間に生徒と触れ合うことは、私の楽しみな時間のひとつとなっています。

「割れ窓理論（ブローケン・ウィンドウ理論）」は、窓ガラスを割れたままにしておくと、その建物は十分に管理されていないと思われ、無造作にごみが捨てられ地域の環境が悪化し、犯罪が多発するというものです。アメリカニューヨーク市では、地下鉄を含め街中の落書きを消し、ごみの投げ捨てなどを徹底して無くし続けた結果、犯罪発生件数を大幅に減少させたという話はあまりにも有名です。

身近な人や身の回りの環境のちょっとした変化を見逃さず、そのままにしておかない、見て見ぬふりをしない、たった一人雑巾で床を拭いてくれた生徒のように「放っておかない」ことをこれからも心していきたいと思えます。

保護者、地域の皆様、今年度の西中の教育活動に対しまして多大なるご支援とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。来年度もよろしく願いいたします。

生徒の皆さん、来年度も「IT'S 西中 ガチで SHOW TIME!」でいきますよ。